

# 2歳児



**発達の特徴**

歩行が安定し、走ることも自由になってきます。少し高いところから跳び降りたり、片足立ちをしてみたり両足跳びもできるようになってきます。体の動きを止めてじっとし続けるようなコントロールは難しいですが、イメージと結びついた楽しい動きを楽しむ中で、自分の体を自分で動かす喜びを高めていきます。

「～してから～する」と簡単な見通しをもてるようになってくると、今まで単純な繰り返した遊びも発展していきます。「大きい⇔小さい」「いっぱい⇔ちょっと」「おにいちゃん⇔赤ちゃん」など、ものを対比的に見ることもできるようになってきて、遊びが豊かになっていきます。

「一緒だね」と喜んだり「小さい方ならあげるよ」と少し譲ったりする姿も出てきます。

「何で?」「これ何?」と質問をしたり、何でも「自分でしたい!」と自己主張をしたりする姿が盛んに見られるようになります。やりたいけれどできない気持ちや、みんなと同じようにしてみたいけどできるかなという心の揺れから、怒ったり泣いたりして気持ちが崩れてしまう姿も見られます。

また、「友達の楽しい遊びの中に入りたい」という要求が出始め、気になる友達の隣でお気に入りの遊びを始めたり、友達と同じものを使ってみたりします。少し自信がなかったり、みんなのしている遊びの内容が分からなかったり、自分にできるか不安であったりすると、「いや!」と言ったり指吸いをしたり、机の下に潜り込んだりするような姿を見ることがあります。そういった表面に見える子どもの姿の裏に本当の願いが隠れていることがあります。

**大切にしたい保育の課題**

- 食べる、寝る、排泄する、遊ぶことをしっかりと経験し、毎日の繰り返しの中で2歳児なりの生活を見通す力が育ってきます。「散歩がしたいから、自分で靴を履く」「おやつを食べたら、外で遊ぼう」と、大人と一緒に期待したり楽しい目的を共有したりして、子どもが生活の主人公となり、自分で次の行動を決めていけるようにしましょう。そのためには、日課の中に時間的余裕や自由感があることが大切になります。
- 何でも自分でやりたいこの時期ですが、時には甘え、思い通りにいかない<sup>かんしゃく</sup>と癇癪を起こすなど、感情が揺れ動きます。「いや」「見て見て」は自我を育む大切な姿と捉え、思いやつもりを聞き取り、共感しましょう。また、うまく表現できない気持ちには、言葉を添えることも大切です。
- 様々なものを身近なものに見立てたり、身近な人のつもりになったりして遊ぶことが盛んになります。一見すると子ども同士と一緒に遊んでいるように見えますが、自分の遊びを楽しんでいることが多いです。まずは、一人一人の遊びを十分に認めることが大切です。「もの」や「気持ち」や「場所」の共有が子ども同士をつなぐきっかけになります。保育者は友達と一緒に生活、楽しさや面白さ、驚きなどをたっぴりと共有できるような機会を多くつくりましょう。
- 個人差が大きく、興味のもち方や対象、またそのタイミングが個々や月齢によっても異なります。様々な楽しみ方のできる幅のある遊びを用意することが大切です。友達の姿を見て後から興味をもつ子どももいるので、長いスパンで遊びを展開し、自分のタイミングで遊ぶことができるような工夫や時間が必要です。

## 「わくわく・のびのび・いきいき」育つために —発達をふまえた関わり方—

### 繰り返し楽しめる遊びの中で

ちょっとした段差を一人の子どもが跳び下りると、周りの子どもが集まってきて次々と同じように跳び下ります。「もう一回」「今度はあっち」と自分で決められる喜びを味わいながら、遊びが広がっていきます。様々なところから跳び下りられる自分が誇らしくて仕方がない子どもたち。次々と遊びが展開するのではなく、場所を代え、物を代え「跳び下り」という遊びを繰り返し楽しむことが大切です。



### 期待と見通しがもてるように

繰り返し散歩に出掛けると「明日もまた行きたいな」「今日は犬いるかな」などと期待するようになります。「～してから～する」と次の行動だけでなく、その先も見通せるようになっていきます。

散歩に行くまでのちょっとした時間に絵本を読んだり、ゆっくりと友達の様子を眺めたりと、それぞれ自分なりの見通しで過ごしています。逆に「次はトイレに行って…着替えて…」と細かく指示すると「いや!」と大人の指示に反発します。子ども自身が生活の流れを大きくつかめるように、保育者が空間や動線を工夫することで、すぐ先の生活に見通しをもち、自分で決めて行動できることが大切です。



### 変化する素材、幅のある遊びを

A児は段ボール箱をトラックに見立て、荷物を積んで遊んでいます。それを見ていたB児、C児も箱を押し始めました。3人は「同じ」と喜び合っていました。でもB児が見立てているのは新幹線、C児は押しして走ることが楽しい様子でした。子どもたちは自分の経験を基にイメージします。トラックにしか見えない箱では3人の遊びは成り立ちません。またC児のように違う部分を楽しんでいたとしても、段ボール箱というものでつながっていけます。何にでも見立てやすい素材を用意し、共に遊びながら子ども同士をつないでいきましょう。



### 【いや！いや！でも、プールに入りたい（春～夏）】



着替えやトイレが嫌いなA児。でもプールは大好きで、とても楽しみにしています。保育者はいつも、どのように誘おうかと困っています。

ある日、保育者が「プールで遊ぶよ、嬉しいね。おしっこ行ってから着替えよう」と誘うと、A児は、真っ先に着替え始めました。

「A君、トイレ行ってきた？」と保育者が尋ねると、「もう、行ったよ」と答えるA児。「すごいね。いっぱい遊ぼうね」と声を掛けると、得意顔でにっこりと笑いました。

#### 【子どもの姿の読み取り】

自我が強くなり、保育者に指示されることを嫌がったり、自分のつもりを邪魔されたりすることを嫌うこの時期、大人の働き掛けに対して「いやいや」と返すことがよくあります。好きな遊びができ、その遊びを楽しみにしたり、自分で決めたことを“自分でしたい”という意欲が高まったりします。

#### 【このコラムにおける 保育のポイント】

次の活動を指示するだけでなく、遊びに期待や見通しがもてるように、活動を具体的に分かりやすく伝えたり、楽しい活動を示したりすることが大切です。友達の様子を見る間をつくることで、見通しがもちやすくなります。また「自分で」の気持ちが満たせるよう子ども自身が選ぶ場面をつくりましょう。

### 【みんなごはんだよ（秋～冬）】

午後の遊びから食事の準備をする時のこと、保育者が給食室に行こうとすると、C児とD児は「一緒に行く」「お手伝いする」と言い出しました。保育者が「うがいした？手を洗った？」と尋ねると、すかさずC児とD児は「したよ」と答えました。

保育者と一緒に食事を運び、クラスに到着するとC児とD児は「牛乳もってきたよ」「今日は、〇〇だよ」と、クラスの友達に得意気に話し掛けています。



#### 【子どもの姿の読み取り】

他者への興味が膨らみ、身近な大人やお兄さんお姉さんが持つ物や行為に憧れ、同じようにしたがりです。簡単なお手伝いの機会をつくることで、できたことを認めてもらおうとしたり、保育者と同じことができることを喜んだりしています。

#### 【このコラムにおける 保育のポイント】

保育者に頼られたり、お手伝いをしたりすることで、自分の身の回りのことを意欲的にする姿があります。そのことを十分に受け止め、認めましょう。しかし「したいけれどできない」不安や自信のなさ、苦手意識も抱えているので、保育者が気持ちに寄り添ったり、丁寧に対応したりして一緒にことができる喜びを感じられるように関わっていきたいものです。また、手伝いたい子どもが次々出てくるので、期待をもって順番を待つ経験を重ねることが必要になってきます。

【電車が ガタンゴトン (春～夏)】



今日のおやつは“ミートスパゲッティ”  
「ガタンゴトン、ガタンゴトン」とA児がフォークを滑らせる  
と、その様子をしばらく見ていたB児が、A児のフォークを貸し  
てもらい、「ガタンゴトン、ガタンゴトン」と真似を始めます。  
しばらく代わり合って電車に見立てたフォークを動かします。  
途中何度か顔を見合わせ、笑い合っています。

【子どもの姿の読み取り】

おやつの中で「〇〇みたい」と、フォークを大好きな汽車に見立てて楽しむ二人。気の合う友達と同じ物を持ったり同じ行動をしたりすることで、見立てて遊ぶ楽しさが倍増します。

【このコラムにおける 保育のポイント】

一見すると、してはいけない行動のように思いますが、生活や遊びが、まだ分化していない時期であるということを理解しましょう。生活や遊びの中で見立てをたっぴり経験できるようにして、保育者も子どもの世界を共有できるといいですね。

【焼けたよ 食べて (秋～冬)】

小麦粉粘土で思い思いのものをつくって遊んだ日のこと。  
C児は丸めて伸ばして・・・「お好み焼き」と名付け、ままごとコーナーのホットプレートで、焼いたりコテで裏返したりしています。  
「先生、お好み焼き焼けた。食べて！」とC児。見ていたD児も、粘土をもってきてホットプレートで切り分け、C児と保育者に「どうぞ」と差し出しました。



【子どもの姿の読み取り】

おやつの際に目の前で焼いてもらった経験などが、見立て遊びを豊かにします。粘土や砂でつくったものを見立てられるようになり、「〇〇」と名付けて楽しむ時期です。友達の様子をよく見て、近くで同じような遊びを展開することが増えてきます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

共通体験を通して遊びが広がっていきます。同じものでも、見立てているものはその都度違うこともあります。その時々でのやり取りを楽しんでいることを理解しましょう。友達と一緒に遊んでいるようでも一人一人の遊びである場合があります。保育者が一人一人の遊びを認めていったり、仲立ちとなったりして、遊びや人をつないでいくことが大切です。

【みーつけた みつかった(春～夏)】



「先生走って(追い掛けて)」と言って追い掛けてもらうことを期待しながら逃げていったA児。それを見ていたB児、C児も「ぼくを追いかけてほしい」といった表情で逃げ始めます。

布がかぶさった家のような場所に隠れている友達を見付けると、それを真似て次々に隠れる子どもたちです。

【子どもの姿の読み取り】

遊びの中で、保育者に捕まえられたり見付けられたりすることを期待しています。その瞬間を1対1で関わってもらうことを喜んでいる子どもたちです。同じ“楽しさ”を同時に味わう経験の積み重ねが、“友達と遊ぶ楽しさ”“みんなで一緒に遊ぶ楽しさ”を知ることにつながっていきます。

【このコラムにおける 保育のポイント】

みんなで遊ぶ楽しさを大切にしながらも、子ども一人一人の「自分を見てほしい」「一緒に遊んでほしい」という気持ちを受け止めましょう。保育者と子どもの1対1の関係を大事にし、みんな一緒ではなく、一人一人を丁寧に“つかまえる”関わりが、思いを受け止めてもらった喜びや、遊びの満足感を育みます。

【はっぱおばけだぞ～(秋～冬)】

保育者が葉っぱに穴を開けて顔をあて、「はっぱおばけ～」と追い掛けると、D児が「ぼくもつくって」と葉っぱを持ってきました。

保育者と同じように葉っぱを顔にあて、D児は「おばけだぞ～」と、保育者を追い掛け始めます。

周りにいた子どもたちも保育者と一緒に、みんなで逃げたり、木の幹に隠れたりしています。



【子どもの姿の読み取り】

「おばけだぞ～」と保育者が言うとみんなが逃げる、その関係性を喜び、繰り返し楽しんでいます。保育者と同じようにできることも、追い掛けられて逃げることも、どちらも楽しいので役がころころ変わります。

【このコラムにおける 保育のポイント】

保育者の工夫で遊びは様々に変化します。子どもたちが何を楽しんでいるかという点を見極めながら、柔軟な対応をすることが大切です。

遊びを通して“楽しい”という感情を友達と共有できるように関わりましょう。

### 【登ってみたい(春～夏)】



「オーイ、こっちにおいで」と保育者が築山の上から声を掛けると、下にいたA児が足に力を入れて一歩ずつバランスを取りながら登り始めました。A児が登るのを見て、周りの子どもたちも後をついて登ります。

足腰が不安定なB児も「上に登りたい」と手を地面につけ、高ばいで一歩ずつ慎重に斜面を登っていきました。

#### 【子どもの姿の読み取り】

子どもたちは少し高い所や隠れられる所、狭い所を好みます。園庭の築山はその一つ。お気に入りの場所があると、安心して過ごすことにつながります。保育者の手を借りて登っていた子どもも、繰り返し経験する中で体の使い方が分かり、自分の力で登れるようになっていきます。

#### 【このコラムにおける 保育のポイント】

子どもたちにとっての憧れの存在である保育者が遊びのモデルとなって誘い掛けることで、築山が「行ってみたい」「遊んでみたい」場所となります。築山は体を使って遊ぶ楽しさや挑戦する意欲を味わえるだけでなく、園庭での遊びの拠点となり泥遊びや水遊びへも広がっていきます。

### 【みんなで 滑ろう(秋～冬)】

土を足して一段と高くなった築山に、C児とD児が手をつないで登り、顔を見合わせながらお尻をつけて滑ります。

保育者が「今度はどうやって滑る？」と尋ねると、「お腹で滑るー」と腹ばいになって滑り下りるC児。周りの子どもも“面白そう”と真似を始めました。

保育者が「みんなで滑ろう。3、2、1、それー」と掛け声を掛けると、みんなで一緒に滑り下りました。



#### 【子どもの姿の読み取り】

手足の力がついたので、さらに高くなった築山に登ったり、勢いよく下りたりすることを楽しんでいます。楽しそうな雰囲気を引き寄せられるようにしてみんなが集まってきます。掛け声に合わせて一斉に滑り下ることによって、「友達と一緒に」「楽しかった」といった経験を共有していきます。

#### 【このコラムにおける 保育のポイント】

子どもの姿や育ちに合わせて築山の高さを変化させるなど、程よい抵抗や面白さが味わえるよう、環境を工夫することが大切です。

保育者が、一人一人の思いを大切にしながら遊びのモデルとなることが必要です。一緒に遊ぶことで、子どもの好きな場所や遊びの楽しさを共有していけます。

期／月		2歳児 Ⅰ期（4月～5月）
期の特徴		新しい生活や先生に慣れることで「自分で」が出せるようになる時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・上のクラスになったことを喜ぶが、新しい先生や環境に慣れていないことから、新入児につられて泣いたり不安になったりする姿が見られる。</li> <li>・先生の誘い掛けに対し「いや」「自分で」と思いを出し、見守られたり手伝ってもらったりして身の回りのことを自分でしようとするが、うまくいかず泣いたり癩癩を起こしたりする時もある。</li> <li>・先生や友達のそばで気に入った場所やものを見つけて遊ぶ。</li> <li>・固定遊具、砂場やままごと玩具に興味をもち、触れたり先生の真似をして遊んだりする。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおまかな生活の流れややり方が分かり、身の回りのことを先生と一緒にしてみようとする。</li> <li>・先生や友達と過ごす中で、気に入った場所や玩具を見つけて安定した気持ちで遊ぶ。</li> </ul>
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生に要求や思いを安心して出し、安定して過ごす。</li> </ul>
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の着脱、手洗い、食事など身の回りのことを先生に手伝ってもらいながら一緒にする。</li> <li>・先生や友達と一緒に喜んでおやつや給食を食べる。</li> <li>・身近な先生と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。</li> </ul>
	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味をもって友達の遊ぶ様子を見る。</li> <li>・保育室や園庭に慣れ、自分のしたいことをしたり、気に入った場所やもので遊んだりする。</li> <li>・見つけた身近なもの（小動物、植物など）を見たり触れたりして親しむ。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな玩具や遊具に興味をもって触れてみようとする。</li> <li>・したいことやしてほしいことを保育者に動作や言葉で示す。</li> </ul>
	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけたものや、していることを知らせ、受け止めてもらう。</li> <li>・絵本を喜んで見たり、言葉の調子を楽しんだりする。</li> <li>・先生の真似をして、歌や手遊び、体操を一緒に楽しむ。</li> </ul>

### <保育のポイント>

- ☆初めての環境や職員に不安や戸惑いを感じていることを十分理解し、様々な態度で表す子どもの気持ちを丁寧に受け止め、信頼関係を築く。
- ☆新しい環境に早く慣れることを焦らず、個々のペースに合わせて子ども達が安定し、遊びや友達に気持ちを向けていく様子を細やかに見守る。
- ゆったりとした時間や見慣れた玩具など落ち着ける環境に配慮し、気に入った遊びや玩具・場所が見つけられるよう、保育者と共に同じものを見たり触れたり遊んだりすることを繰り返す。
- 子どもの行動や思いに寄り添い言葉を添えることで、言語化や意味付けをしていくことが大切である。
- 子どもの「自分でしたい」という思いや育ちを丁寧に見ていき、個々に応じた見守りや支援を行う。

### <家庭との連携>

- ・1年間のクラスの方針を知らせ、保育の中で大切にしたいことを伝える。
- ・新しい環境に不安を感じ、継続児であっても、登園を渋ったり別れ際に泣いたりする姿を見せることもある。また排泄などの生活習慣が不安定になることもあるので、園で楽しんで遊んでいる様子を知らせながら、保護者が安心して子どもの様子を温かく見守れるようにする。
- ・「自分で」「自分が」という自己主張が強くなる時期であることを知らせ、子どものやりたい気持ちを尊重してもらえようとする。また、やりたい気持ちと力量とが伴わず「やっぱり～して」と言ってきた時に、受け止めて、さり気なく手伝ったり応じたりすることが大切なことを知らせる。

期／月		2歳児 Ⅱ期（6月～8月）
期の特徴		“自分で”という気持ちをもって先生や友達のしていることに興味や関心を示す時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の生活に少しずつ慣れ、落ち着く場所や気に入った玩具ができ、その場所にいたり、物を持ったりすることで安心して過ごす。</li> <li>・園生活での大まかな流れが分かり自分でしようとする。</li> <li>・次にする活動や次の楽しみが分かると、先生に見守ってもらいながら、上着やズボンなどの着脱を自分でしようとする。</li> <li>・先生や友達のしていることや持っている物に興味をもったり、同じようにしようとしたりする。</li> <li>・砂、泥、水遊びに興味を示して、自分のペースで遊ぶ。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の活動を楽しみにして、身の回りのことを自分でしようとする。</li> <li>・いろいろな素材に触れて感触や変化を楽しみ、繰り返し遊ぶ。</li> </ul>
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の活動を楽しみにすることで、衣服を脱いだり、着たりしようとする。</li> <li>・尿意を感じて知らせたり、自分でトイレに行ったりする。</li> </ul>
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生に促されたり、知らせてもらったりしてうがいや歯磨きを喜んでする。</li> <li>・友達のしていることに興味をもち、近付いたり関わったりする。</li> <li>・先生の姿に関心をもち、同じようにやってみようとする。</li> </ul>
	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可塑性のある素材（水、砂など）に触れて感触を十分に楽しむ。</li> <li>・小動物や虫、夏野菜の様子に興味をもち、見たり触れたりする。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや生活の中で、多い少ない、大きい小さいなどに関心をもち、見たり触れたりして感じたことを、身振りや態度、言葉などで伝える。</li> </ul>
	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生や友達と一緒に絵本の中のやり取りを楽しんだり、言葉を真似て言ったりする。</li> <li>・パスや絵の具などで、思いのまま塗りたいくったり、かいたりして楽しむ。</li> </ul>

### <保育のポイント>

- ☆一人一人の子どもの気持ちを十分に受け止め、甘えや自分の気持ちを素直に出せるようにする。
- ☆一人一人の健康状態を把握し、適切な休息や水分が取れるようにしたり、衣服を清潔に保ったりする。
- ☆着脱について個人差が大きい時期なので“やりたい”気持ちやしようとする姿を大切に受け止め、見守っていく。
- いろいろな素材に関心をもちたり、触れて遊ぶことを楽しめるように素材を吟味したり提供の仕方を工夫したりする。
- 生活や遊びの中で、量や大きさの違いに気付けるような機会を設けたり言葉を添えたりすることで、子どもが見比べたり選んだりする力を広げていく。
- 保育者や友達が遊ぶ様子をモデルにして、自分の楽しみ方で遊べる機会を繰り返し設ける。
- 気になる友達ができるが、自分本位な関わりが多いので、友達に関心をもち姿を見守りつつ、保育者が関わり方を示したり、支えたりしていく。

### <家庭との連携>

- ・着脱しやすい衣服を用意してもらい、自分でしようとする姿を受け止め、見守ってもらうようにする。
- ・友達と一緒に遊んでいなくても、友達の遊んでいる様子を見ることで関心を示していることを伝え、園でも保育者が見守っていることを知らせる。

期／月		2歳児 Ⅲ期（9月～12月）
期の特徴		興味のあることに「やってみたい」という思いをもち、「やった」「できた」という満足感を味わう時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や食事の場面で好きな友達と一緒にいることで安心したり、触れ合いを楽しんだりする。</li> <li>生活経験が積み重なり、先生や身近な大人のしていることを真似る。</li> <li>言葉での表現が十分ではないが、伝えたい思いが膨らんでくる。</li> <li>歩く、走る、登る、跳び下りるなど全身を使って遊ぶことを繰り返し楽しむ。</li> <li>つくったものを見立てたり、身近な人を真似て「～のつもり」になったりして遊ぶ。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のしていることに興味をもち、真似たり一緒にしたりすることを喜ぶ。</li> <li>全身を使い、体を動かして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>自分なりの見立てやつもりを楽しみながら、先生や友達と関わって遊ぶことを喜ぶ。</li> </ul>
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びの中で、自分でしたいという思いをもって取り組み、「できた」という喜びを感じる。</li> <li>先生や友達と一緒に食事をすることを喜ぶ。（準備、食育）</li> </ul>
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯磨き、うがい、手洗いを自分でしようとしたり、尿意を感じて排泄したりする。</li> <li>歩く、走る、またぐ、登る、跳ぶ、押す、ぶら下がるなど全身を使った遊びを繰り返し楽しむ。</li> </ul>
	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な虫や草花、木の実などに興味を示し、集めたり、探したり、遊びに使ったりする。</li> <li>生活や遊びの中で、大きさや量、感触の違いに気付いたり、形や色などに関心をもって選んだりする。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>してほしいことや自分が経験したこと、思いを言葉などで伝え、伝わった喜びを感じる。</li> <li>いろいろな素材を身近なものに見立てて遊ぶ。</li> </ul>
	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>パスやはさみ、のりを使って遊ぶことを楽しむ。</li> <li>自分なりのつもりをもってままごとなどの好きな遊びをする。</li> </ul>

### <保育のポイント>

- ☆自分でしようとする気持ちを受け止め、その子のやり方を見守ったり、方法を知らせたりして、自分でできた喜びが感じられるようにする。
- 散歩の楽しみ方には個人差があるため、みんなで共有できる楽しみにつながるよう、子どもたちが興味をもった場所に繰り返し出掛ける。
- 子どもが遊びの中で、量や大きさの違いなどを見比べたり選んだりできるような環境を用意する。
- 見立て、つもり遊びがしやすいもの（布、紙、自然物、いろいろな道具など）を用意し、自分の遊びがじっくり楽しめるようにする。
- 「友達と一緒に楽しい」と感じられるように、保育者も一緒に遊びながらそれぞれのつもりを受けとめたり、仲立ちとなったりして子ども同士をつないでいく。
- 一人一人の伝えたいという思いがあることを理解し、話を聞くだけでなく「〇〇ちゃんの言いたかったことは〇〇だね」と言葉で返し、伝わった喜びが感じられるようにする。
- 生活や遊びで使う物の使い方を子どもに知らせたり確認したりして安全に使えるようにする。

### <家庭との連携>

- ・健康で安全な生活習慣（薄着、手洗い、うがいなど）を定着させることの大切さを知らせていく。
- ・園での姿や生活の中で大切にしていることを知らせ、自分でできることは家庭でも同じようにしてもらい、自分なりにできた喜びに共感してもらえらるようにする。

期／月		2歳児 IV期（1月～3月）
期の特徴		自分でできることに自信をもち、自分のつもりを主張したり、友達と楽しさを共有して遊ぶ時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>先生や友達と簡単なやり取りを通して一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> <li>運動機能が高まり、体を動かして遊ぶことが楽しくなったり、衣服の着脱など身の回りのことができるようになってくる。</li> <li>自分でしようとする気持ちが強くなる。できるようになった自分を主張して先生が手伝うと嫌がったり、自分でできたことを先生に「見て見て」と主張したり、応答的に関わってもらうことを喜んだりする。</li> <li>ものの名称や、生活の中での言葉が分かり、喜んで使おうとする。</li> <li>自分の思いやつもりを明確にもてるようになるとともに、安心できる関係の中で思いやつもりを十分に受け止めてもらいながら、自己実現しようとする。</li> </ul>
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのことを自分でしようとし、できるようになった嬉しさを感じる。</li> <li>興味のあることや経験したことなどを再現したり表現したりすることを楽しむ。</li> </ul>
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で衣服の着脱をしたり、脱いだ衣服を片付けたりする。</li> <li>排泄の始末の仕方が分かり自分でしようとする。</li> <li>生活や遊びの中で、丸める、たたむ、めくるなど手指を使うことに興味をもち取り組む。</li> </ul>
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒にすることを喜び、親しみをもって遊ぼうとする。</li> <li>『順番』や『かわりばんこ』『かわって』などの友達とつながる言葉に関心をもち、使おうとする。</li> </ul>
	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬の自然（雪・氷・霜柱など）に興味をもって関わったり遊んだりすることを楽しむ。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや経験したことを伝えたり、聞いてもらったりする。</li> <li>先生や友達とリズムのある言葉で共鳴したり、一体感を楽しんだりする。</li> <li>つくったものを見立てたり、「～のつもり」になったりして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>かいたり、つくったりしたものに意味付ける。</li> </ul>
	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に合わせて体を動かしたり、身振りでの表現を楽しんだりする。</li> <li>楽器や音の出る玩具を叩いたり、振ったりして音を出して遊んだり、音の違いに気付いたりする。</li> </ul>

### <保育のポイント>

- ☆室内の活動だけでなく、戸外での活動や全身を使った遊びも意図的に取り入れていく。
- ☆自分でしたい、しようとする気持ちを受け止め、「自分でした」ことを十分に認めていく。
- ☆うがいや手洗いなどを毎日の繰り返しの中で身に付け、健康に過ごせるようにする。
- 子どもがしていることや思いに保育者が共感したり言葉を添えたりし、より遊びを楽しめるようにしていく。
- 言葉のやり取りや見立て、つもりをもって表現することを友達と一緒に楽しめるように、保育者もやり取りやつもりを楽しみながらモデルとなって遊ぶ。
- 一人一人の思いを押し量りながら丁寧に耳を傾けることで、話す喜びや、伝わった喜びを味わい、伝えたいという思いが膨らむようにしていく。

### <家庭との連携>

- ・保護者が子どもの見立てやつもりと一緒に楽しむことが、子どもとの愛着関係や信頼関係につながっていくことを伝える。
- ・具体的な子どもの姿を通して、個人差が大きい時期であることを理解してもらう。
- ・トラブルの意味合いも含めた集団生活ならではの、値打ちや育ちを丁寧に伝えていく。
- ・季節に応じた服装や過ごし方、薄着や衣服調節など冬場の健康の保ち方を意識できるように伝えていく。
- ・子どもの社会性を育むために、自己主張や自分でしようとする気持ちを受け止めつつ、大人の思いも丁寧に伝えることの大切さも伝えていく。

